

特集

SNS でつながる！ひろがる！天文普及・教育

成田 直（川西市立北陵小学校）

1. はじめに

本稿では、私が SNS（主に Twitter）を使ってしてきたことを紹介する。

Twitter とは、140 字以内の「ツイート」と称される短文を投稿できる情報サービスのことで、自分をフォローしてくれている「フォロワー」に一斉に情報発信することができる。さらにそのフォロワーが「リツイート」することによって、“私のフォロワーのフォロワー”にまで情報が広がっていく。こうした拡散性が情報発信における Twitter の大きな強みだろう。

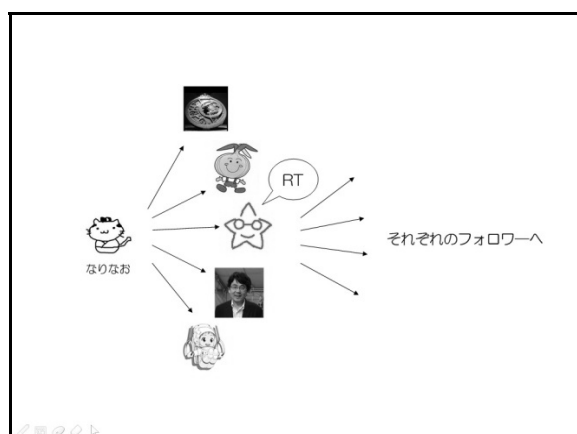


図 1 Twitter の「つぶやき」が拡散するしくみ

もう一つの特徴として、「ゆるさ」が挙げられる。会ったことがない人にでも気軽に話しかけてもよい雰囲気が Twitter にはある。そのおかげで、私も多くの方と新しいつながりを作ることができた。

次節から、それらの Twitter を通してつながり、広がった事例を紹介していく。人と出会い、それが天文普及や天文教育のイベントに発展していくのである。

2. 新妻氏との出会い

はっきりとしたやりとりは覚えていないのだが、天文に関するつぶやきをきっかけにつながったことは間違いない（宙ガール®関連だったかな？ちなみに Twitter において「#soragirl」というハッシュタグを初めて使ったのは私である）。

新妻氏は、言わずと知れた株式会社ビクセン（以下、Vixen 社）の社長である。Twitter を通じてでなければまずつながることはなかったであろう方である。以降、Twitter はもちろん実際にお会いしてやりとりをさせていただく間柄になり、現在に至っている。

この間、新妻氏および Vixen 社にはいろいろとお世話になっていて、私が主宰している大阪ステーションシティ天体観望会で毎回配布している Vixen 社季刊誌「So-Ten-Ken」やそれら配布物を入れるための立派なビニル袋の提供をいただいている。

他にも、Vixen 社を通じて柵リバネス主催の教員向け望遠鏡講座のお手伝いをさせていただいたこともあった。今後も様々な企画をご一緒させていただきたいと思っている。



図 2 観望会後の懇親会で新妻氏と

3. 清田愛未さんとの出会い

清田さんは天文にまつわる楽曲をいくつか出しておられる歌手である。はやぶさが帰還して話題になった 2010 年には「はやぶさ 2010」という歌を出された。

そんな清田さんの「プラネタリウムでコンサートがしたい」という旨のつぶやきを私が Twitter の中で拾い、話しかけたことで実現したのが 2010 年 12 月 11 日（土）大阪市立科学館で行われた『おとなのためのクリスマスナイト清田愛未プラネタリウムコンサート「誕生」』である。



図 3 清田愛未さんのコンサートの様子

4. 山野さと子さんとの出会い

山野さんはアニメファンなら知らない人はいないと言っても過言ではない有名人だろう。本会会員なら必ず一度は耳にしたことがあるのは「ドラえもののうた」だ。他にも「とんがり帽子のメモル」や「メイプルタウン物語」の主題歌を歌っておられた方である。

そんな有名人ともつながってしまうのが Twitter である。きっかけは宇宙が好きな山野さんの妹さんとのやりとりだったと記憶している。やりとりの中で「じつは姉が歌手をやっています・・・」「一度プラネタリウムでコンサートをしたいと言っていて・・・」

というような話になり、実現したのが 2013 年 3 月 2 日（土）伊丹市立こども文化科学館で行われた『山野さと子星空コンサート「星をかぞえて in プラネタリウム」』である。



図 4 山野さと子さんのコンサートの様子

5. 森永氏との出会い

森永氏は M's プランニングというイベント会社の方である。この方も星が好きでそういったつぶやきをしているうちにつながった。大阪ステーションシティ天体観望会に足を運んでくださったこともある。

そしてある時、「サマソニで観望会をしてみませんか？」というお誘いを受けた。サマソニとはサマーソニックの略で、毎年夏に行われている野外音楽フェスのことである。かなり大きな規模で 2013 年の大阪会場の来場者数はのべ 10 万人と言われている。

野外フェスと観望会が果たして共存しうるのか、私にとっても冒険的チャレンジだったが、結果は大成功と言っていいだろう。もちろん、森永氏をはじめ観望会スタッフ（星のソムリエ京都、黄華堂、大阪教育大学天文学研究室のみなさん）の多大な協力があってこそその成功である。

まさかこんなに大規模なイベントで観望会を開くことができるなんて、これも Twitter がなければあり得なかった話である。



図5 サマソニでの観望会の様子

6. 川西市のみなさんとの出会い

私は Twitter で主に「天文」、「教育」、「川西市」についてつぶやいている（くだらないつぶやきも多いですが・・・）。

川西市は私が育った地であり、現在の勤務地でもあり、さらに居住地でもある。かねてから地元で観望会を開いてみたいと思っていた私がそのようなことをつぶやいていると、川西市を盛り上げたいと思っている方たちが徐々に Twitter の中で集まり、「川西市で観望会を開催しよう」という動きにまで発展した。



図6 アステ川西観望会のコアメンバー

決して天文に詳しいわけではなく、職業も年齢も立場もバラバラのメンバーだが、「星で川西市を盛り上げたい」「川西市の子どもたちに星を見せたい」という思いで、川西市の玄

関口にあるアステ川西という阪急百貨店が隣接する商業施設でこれまでに4回の観望会を開催してきた。“地域のために”という明確なコンセプトが、やっけてとても心地良い観望会である。

これも Twitter がなければつながらなかった縁であろう。

7. おわりに

ここまで紹介してきたように、SNS をうまく活用すれば新たな出会いやイベントに結びつけることができる。ぜひ私の事例を参考にして各地で天文普及、教育を盛り上げていただきたい。ただし、きっかけは SNS でも最後はやはり人と人、実際に顔を合わせなければいいものは生まれないだろうということをつけ加えておく。

また矛盾するようだが、個人的に Twitter や Facebook といった SNS はその人気（活用度）のピークを過ぎたように思う。だからといって私の事例には意味がないのではなく、大切なのは何でも天文に結び付けてやろうという遊び心にも似た気概である。

これからも世の中には次々と新しい技術やものが出てくるだろう。それを受動的に使うだけではなく、能動的に自分の得意分野と結び付けて楽しもうではないか。

成田 直